マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁学校教育局高校教育課
［令和５年度第３号］　R6.1.19発行

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」（北海道静内農業高等学校）～

「マイスター・ハイスクール事業」成果発表会を開催

12月19日(火)、事業3年目の研究成果のまとめとして、成果発表会を新ひだか町公民館で開催し、会場とオンラインを合わせて、全国から120名を超える方々が参加しました。

成果発表会は、生徒が進行を担い、開会に当たり、農業クラブ会長の遠藤さんが「この3年間、地域や企業の方々との交流を通し、たくさんのことを学んできました。今日は、その成果を堂々と発表してください。」と生徒に呼びかけました。その後、マイスター・ハイスクール事業で取り組んだ内容や、成長したこと、感じたことなどの報告、課題研究で取り組んできた研究を踏まえた提言、産業界や地域の方々との討議、討議の全体共有が行われました。

進行を務めた前農業クラブ会長の松本さん

開会に当たり、挨拶をした農業クラブ会長の遠藤さん

マイスター・ハイスクール事業の研究成果について

各学科・コースを代表して3名の生徒から、今年度までの各学科・コースの取組と、3年間のマイスター・ハイスクール事業を通して、成長したことや感じたこと、学んだことなどについて報告がありました。

【事業テーマ】地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～

【食品科学科】
3年　梅木さん

〈取組〉

- 企業や大学など15団体と連携
- 学校設定科目「商品開発Ⅰ」、「商品開発Ⅱ」を開設し、新ひだか町や企業と連携した商品開発を実施
- 「静農マドレーヌ」、「桜香るみるくソフト」、「ゴーダチーズ」など計８商品を開発
- 大阪の百貨店で販売会を実施

〈成果〉

- 自分の意見を言えるようになり、リーダーにも挑戦するようになった
- 農業系の大学へ進学し、将来、商品開発に関わりたいと考えるようになった

【生産科学科・園芸コース】
3年　山本さん

〈取組〉

- JAや振興局、農業改良普及センターなどと連携
- 農業の担い手育成、高度な栽培知識と実践的な技術の習得など、４分野で講義や演習を実施
- 新ひだか町みどりの食料システム戦略推進協議会に参加し、バイオ炭と緑肥の活用について栽培試験を実施

〈成果〉

- 農業の多様性を理解し、６次産業化を行う経営を目指そうと考えるようになった
- 学びが深まることで多くの疑問をもち、積極的に聞く姿勢が身に付いた

【生産科学科・馬事コース】
3年　牛尾さん

〈取組〉

- 日本中央競馬会(JRA)、日本軽種馬協会(JBBA)などと連携
- 軽種馬の栄養管理、繁殖、育成、調教、販売などについて連携した取組を実施
- 産業実務家教員から最先端の知識や技術を学習

〈成果〉

- 馬に関わる様々な職業を知り、自分の将来を見直すきっかけとなった
- 就職後、子どもたちへの馬文化の普及や強い競走馬の育成に貢献していきたい

グループ別協議・全体共有

科目「課題研究」において、グループごとに取り組んだ研究を踏まえ、10年後の「地域の食」や「日高の馬産地」、「花き・野菜」についてそれぞれ提言を行い、その内容について産業界や地域の方々と討議しました。

分野	討議テーマ（助言者）	討議のまとめ
食品	地域食材を活かした食品開発革命（北海道経済連合会）	商品開発は、地域全体で取り組み、これからも食文化を考え続けることが大事である。
	10年後の食品廃棄物削減について（新ひだか町商工会）	食品廃棄物の量を把握した上で、地域の人々とともに、目標を設定して取り組むことが必要である。
	未来の新ひだか町の災害食（新ひだか町）	農産物の規格外品を活用し、長期間、常温で保存できるような災害食の開発に取り組んでいきたい。
	SDGsに貢献できる地域の規格外品を用いたこれからの商品開発を考える（生活協同組合コープさっぽろ）	規格外品を使用する場合は、印象に残るような商品づくりが求められるため、SNSや二次元コードで注目してもらえるよう工夫することが必要である。
馬事	10年後の日高の馬産地にホースマンをどうやって増やすか（日本中央競馬会）	本校の取組をもっと多くの方に知ってもらうとともに、馬産地のイメージアップや職場環境の改善などを図る取組が地域の活性化につながる。
	10年後の日高の馬産地を盛り上げるためには（日本軽種馬協会）	道外の方に向けた情報発信やイベントの実施のほか、女性や外国人が参入しやすい環境づくりが大切である。
	馬のセカンドキャリアの充実に向けて（日本中央競馬会）	生産された馬が地域に帰ってこられるよう、受入先確保に向けた説明の機会を設けることが必要である。
	子どもたちと馬の関わりを増やすためには（日高軽種馬農業協同組合）	親子での乗馬体験の実施など、乗馬の敷居を下げ、馬を身近に感じてもらう取組が必要である。
園芸	北海道のどこよりも輝いた花き生産（胆振農業改良普及センター）	花き生産を町全体で盛り上げるため、バイオ炭などの研究活動を町民に理解してもらうことが大切である。
	10年後のミニトマトについて（日高農業改良普及センター）	ミニトマトの生産や販売先について、ターゲットを決め、他の地域と差別化を図っていくことが必要である。

講評

生徒たちの発表を受け、管理機関を代表して新ひだか町長と北海道教育委員会教育長が講評を行いました。

大野町長

本事業により、生徒の皆さんがどのように成長できたかを自分の言葉で聞くことができて嬉しかった。皆さんが好奇心をもち、もっと勉強したいと意欲が湧いてくるような取組になったと思う。これからも企業と連携がとれるようしていきたい。

生徒の皆さんには、これからも夢を追い続けてもらいたい。

倉本教育長

この３年間で、たくさんの気付きや学び、成長があったことと思う。地域や産業界と、地域の課題について考えてきたが、これからも自ら課題を発見し、解決に向けて考える姿勢をもち続けてほしい。

運営委員をはじめ、連携いただいた企業や団体の皆様に心から感謝申し上げる。

閉会挨拶

閉会に当たり、生徒会長の小清水さんが、「連携していただいた企業、本日助言いただいた皆様など多くの皆様に感謝します。」と挨拶しました。

閉会に当たり、挨拶をした生徒会長の小清水さん

成果発表会終了後、生徒と教育長の懇談会を開催

成果発表会終了後、発表や運営に携わった生徒と倉本教育長との懇談会を実施しました。

本事業で印象深かった取組や感じたことなど、発表では伝え切れなかった生徒の声を直接聞く機会となりました。

倉本教育長（後列左から2人目）と生徒たち